

多重・分散型国土軸の形成と災害時の リダンダンシーの確保について

【担当省庁】財務省、国土交通省

1 新名神高速道路の早期全線開通

- 新名神高速道路を早期に全線開通していただきたい。

特に城陽～八幡間については予定どおり平成 28 年度に開通していただきたい。

2 城陽スマートインターチェンジ・宇治木津線の早期事業化

- 平成 35 年度の新名神高速道路全線開通に合わせて、城陽スマートインターチェンジを供用するため、府市と連携の下、国においてさらに検討を進め、来年度の事業化を図っていただきたい。

- スマートインターチェンジへのアクセス道路の整備について、現在交付金によりご支援いただいているが、平成 35 年度の新名神高速道路全線開通に合わせ、集中して事業を進めるため、補助事業による支援をしていただきたい。

- 平成 35 年度の新名神高速道路の全線開通に合わせて府・地元市町村でまちづくりを進めており、宇治木津線を以下のスケジュールで進めていただきたい。

そのためにも、今年度は直轄で早期にルート案を決定をしていただきたい。

<スケジュール>

平成 28 年度 ルート決定

平成 29～30 年度 環境調査、都市計画決定、新規事業化

平成 35 年度 部分供用

3 「山陰近畿自動車道」の早期完成

- 「山陰近畿自動車道」(鳥取豊岡宮津自動車道：京丹後大宮 IC～(仮称)大宮峰山 IC 等)の早期完成をお願いしたい。

- (仮称)大宮峰山 IC へのアクセス道路についても、地域高規格道路 IC アクセス 補助制度での支援を来年度からお願いしたい。

<国土交通省の概算要求>

◎ 道路ネットワークによる地域・拠点の連携確保 4,352 億円

内、新しい日本のための優先課題推進枠 2,421 億円

個性ある地域やコンパクトな拠点を道路ネットワークでつなぎ、距離の制約を克服し、地域・拠点の連携を確保するための高規格幹線道路等の整備を推進する。

【現状と課題等】

多重・分散型国土軸の形成と災害時のリダンダンシーの確保を図るため、新名神高速道路等の整備や日本海側国土軸の形成に不可欠な「山陰近畿自動車道」のミッシングリンクを解消し、新たな国土軸の着実な形成を進めていくことをお願いしたい。

京都縦貫自動車道が平成 27 年 7 月に全線完成し、沿線では北部の主要観光地の来場者数が 3 割増加するなど既にストック効果が発現してきており、平成 28 年 10 月に山陰近畿自動車道（野田川大宮道路）が供用し、平成 28 年度内には新名神高速道路（城陽～八幡間）も供用することで、京都府の南北が繋がる効果を活かし、ストック効果が府全域に現れるようアクセス道路などの整備をお願いしたい。

山陰近畿自動車道の（仮称）大宮峰山ICアクセス道路の整備についても、地域高規格道路ICアクセスの補助制度による国の支援を来年度からお願いしたい。

【参考】

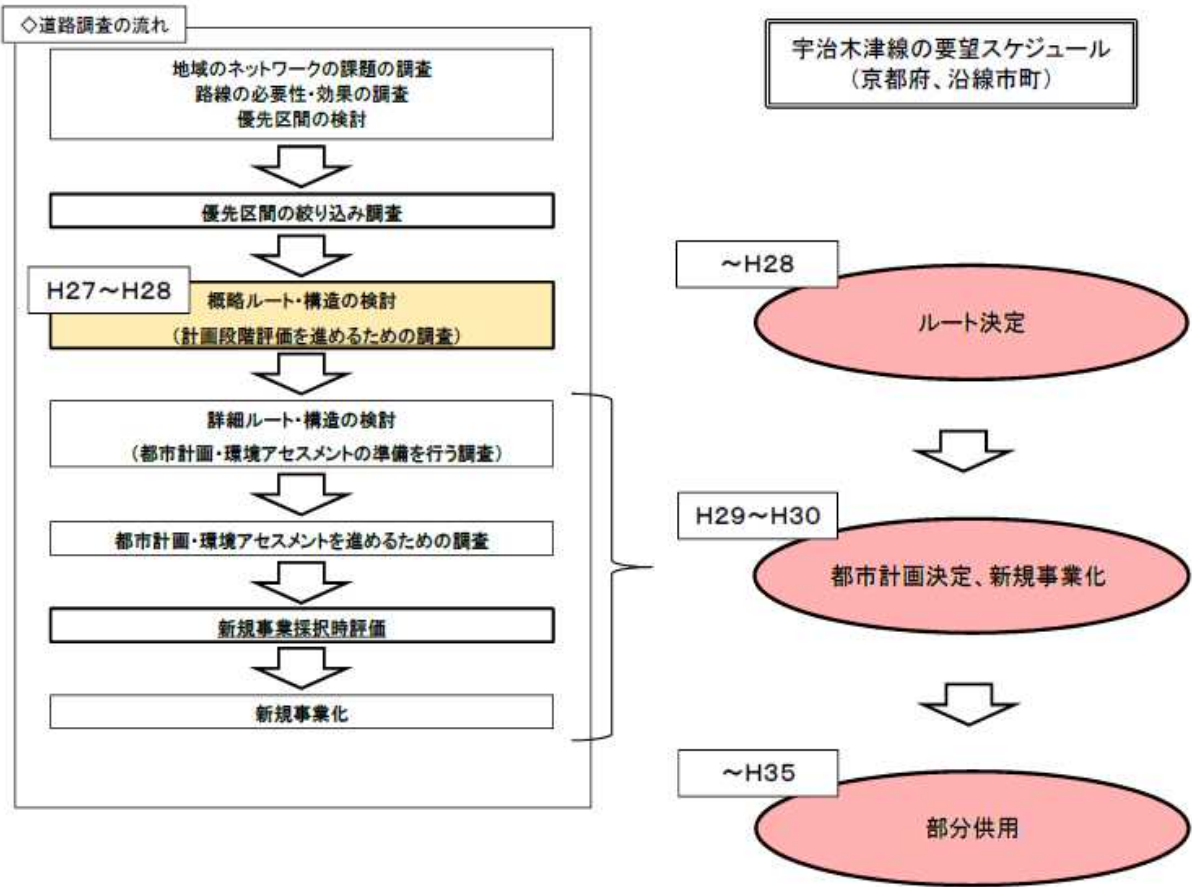
路 線 名		要 望 内 容	
高規格幹線道路	新名神高速道路	城陽・八幡間	事業促進（平成 28 年度完成）
		大津・城陽、八幡・高槻	事業促進（平成 35 年度完成）
	舞鶴若狭自動車道	福知山・舞鶴西間	4 車線化の早期完成
地域高規格道路	山陰近畿自動車道 (鳥取豊岡宮津自動車道)	大宮峰山道路	早期完成（直轄権限代行）
		(仮称) 大宮峰山ICアクセス道路	補助事業による事業化（平成 29 年度着手）
	峰山以西	国による全線早期事業化	
宇治木津線	城陽・木津間	国での早期事業化(計画段階評価調査)	

○ 城陽スマートインターチェンジの検討状況

平成 27 年 6 月 スマートインターチェンジ準備段階調査箇所に採択

8 月 城陽スマートインターチェンジ準備会開催

○ 宇治木津線の検討状況



【京都府の担当課】

建設交通部 道路計画課 075-414-5246